



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2011.2.2 (No.2625) 週報 No.28

第2560地区ガバナー／東山 昕也
会 長／樺山 仁
会長エレクト／山田 富義 (クラブ奉仕A)
副 会 長／杉山 幸英 (クラブ奉仕B)
幹 事／明田川 賢一
S A A／若槻八十彦
会 計／松永 一義

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:54名中39名
■先々週出席率:88.00%

【ヴィジター】

三条北RCより
・梨本建夫さん

【先週のメークアップ】

[1.27] 三条東RCへ

- ・菊池 渉さん、山田富義さん
- ・藤田紘一さん、浅野金治さん
- ・中村和彦さん、丸山行彦さん
- ・田中 仁さん

[1.31] 三条南RCへ

- ・松永一義さん、五十嵐昭一さん
- ・五十嵐晋三さん、五十嵐 浩さん
- ・藤田紘一さん、丸山行彦さん
- ・石橋育於さん、加藤紋次郎さん
- ・斎藤弘文さん

[2.1] 分水RCへ

- ・小越憲泰さん、渡邊喜彦さん



「地域を育み、大陸をつなぐ」

2010～2011年度国際ロータリーのテーマ

「節分草」



会長挨拶

樺山 仁 会長



御挨拶致します。

新たな2011年が明け、各地各団体では組合員会員の初顔合わせの為、新年会が開催されております。

今年はどんな年となるであろうか、明るい材料を探し、明るい年にしたいものです。

2月ともなると冬の雪にも慣れて来る時期なのですが、今年は例年になく大雪で、何となく春に近づく気がしておりません。

ところで十二支は、世の中の森羅万象を12に区切ったもので、最初の子(ね)年は「活発に種をまくべき年」、次の丑(うし)年は「種が成長するのを忍耐強く見守る年」、次の寅(とら)年は「芽が勢いよく伸び始める年」とされております。そして、今年卯(う)年は「その芽が若葉となって成長していく年」という年で、卯年は活性化の年ですから、変化に柔軟に対応していかなくはなりません。又、卯(兎/うさぎ)は平和や豊かさの象徴で、心の平安や豊かな人間関係を構築する年とも言われております。

日本の経済は、今年こそ正念場との意気込みで、景気対策を組んでもらいたいものです。

各企業は、自力であの手この手を模索しながら、経営努力で「脱不況」に挑戦の決意を新たにしております。

ニコニコBOX

樺山 仁さん

大雪もおさまり、今日は太陽が眩しいようです。

1月も終わり、2月第1例会です。

本日の渡辺良一さんの卓話に期待しております。

渡辺良一さん

初卓話です。よろしくお願ひ致します。

菊池 渉さん

明けましておめでとうございます。毎水曜ごとに
葬式だったわけではないのですがー。

今年もよろしく！

小出子恵出さん

32日間続いた寒波もようやくとぎれました。太陽
の光がまぶしいです。

外山雅也さん

久し振りの青空。少し気分が明るくなりました。

杉山幸英さん

すばらしい天気になりました。

渡辺会員、卓話楽しみにしております。

若槻八十彦さん

風邪の為、早退させていただきます。

伊藤さん、よろしくお願ひ致します。

山田富義さん、 荻根澤隆雄さん、明田川賢一さん、

藤田紘一さん、 熊倉昌平さん、 五十嵐昭一さん、

川瀬康裕さん、 会田二郎さん、 伊藤寛一さん、

船越正夫さん、 小越憲泰さん、 歸山 肇さん、

丸山行彦さん、 西山徳芳さん、 松永一義さん、

中村光一さん

渡辺良一会員、本日は卓話ありがとうございます。

楽しみにしております。

世の中の動きは、「今年は持続的な成長が始まる年」と、景気回復に期待されますが、一方では期待と不安が半々と、日本の経済は不透明感が頭をもたげております。

消費低迷による不振が大きく影響して、各自の心の中で不安につながっている様です。

政治はバタバタし、経済は先行きが見えない様では困る訳です。

金融財政政策で、短期的な需要の落ち込みを最小限に抑え、内需分野での規制緩和など、成長戦略をすみやかに実行し、各企業が仕事を確保出来る様な環境が急がれます。

我々は、この一年やる事を間違いない様にしたいものです。

雪の多いこの年が、政治経済共雪の中にうもれている様な気がしてなりません、もう少しで春もやって来ます。春が来れば、野山の草花も芽吹き始めます。我々も芽を出して、元気になりたいと願っております。元気になりましょう！

今日は景気の事に触れて挨拶を終わります。

2月2日分 ￥24,000

今年度累計 ￥682,000

卓 話

陸をつなぐ



渡辺良一 会員

今から16年前、1995年（平成7年）1月17日午前5時46分、明石海峡を震源地とするマグニチュード7.3の直下型地震によって明石市、神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市など阪神間の各都市（兵庫県の沿海部とその周辺地域）、および淡路島北部が最大震度7の激しい揺れに襲われ、各地で甚大な被害が発生した。死者6,433名、行方不明者3名、負傷者4万人以上、家屋の全半壊24万軒（世帯としては約44万世帯）。地震による火災での全半焼約6,200軒超。災害救助法適用は兵庫県内10市10町にのぼる。

交通関係については、港湾関係で埠頭の沈下等、鉄道関係で山陽新幹線の高架橋等の倒壊・落橋による不通を含むJR西日本等合計13社において不通、道路関係で地震発生直後、高速自動車国道、阪神高速道路等の27路線36区間について通行止めになるなどの被害が発生した。

また、地震発生直後から長期間にわたるライフライン（上下水道・電気・ガス・電話）の不通、消防・救急体制の混乱、各種産業・企業への被害、文化財への被害など、被害総額はおよそ10兆円に達した。阪神淡路大震災です。

日本における大地震の歴史

関東大震災

1923年（大正12年）9月1日午前11時58分、相模湾沖を震源とし、首都圏を襲った地震としては最大級のもので、マグニチュードは7.9。死者・行方不明者関東全域で14万人、全壊全焼家屋30万戸、昼食の時間帯に地震が発生したこともあり首都圏で死者・行方不明者10万人のうち約9万人の命と200万人の住宅が、火災によって奪われています。

（火災の拡大速度 時速800メートル、幅300メートル）（2日間燃え続け3500軒焼失 阪神の50倍）

今村明恒（東京大学助教授 関東大震災を予知した地質学者）

関東大震災から遡ること18年、東京大学助教授であった今村の書いた「市街地に於ける地震の生命及財産に対する損害を軽減する簡法」という論文が、雑誌「太陽」に掲載されます。

第1 過去の地震の統計分析から、50年以内に東京に大地震が発生する。

第2 地震で火災が発生すれば、死者が十万人以上になり、とりわけ地盤の弱い下町で被害が大きくなる。

第3 その被害の軽減をはかるためには、石油灯を電灯にかえる、家に筋交いを入れる対策がかかせない。

この論文が、翌年の1月の「東京二六新聞」見出し「今村博士の説き出せる大地震襲来説、東京大罹災の予言」興味本位にセンセーショナルに報道した。

この年が丙午（ひのえうま）にあたり、不吉な迷信にからめて、今すぐ大地震がおきるかのように報道した。

結果、不安や恐怖感が国民の中に広がる。授業を中止する学校、避難を始める住民、社会が騒然となる。

大森房吉（東京大学教授 今村の上司「近代地震学の父」）

立場上から鎮静化をはかる。結果、今村には「ほら吹き」との汚名が残る。

今村明恒

1915年（大正4年）房総半島沖で群発した地震のとき、群発地震が大地震の予兆としての前震かどうかで論争になる。関東大震災以降、今村は国民への意識啓蒙に挑戦しています。

○メディアによる啓蒙「関東大震災について」というレコード会社からの講演録を出す。

○子供の防災教育に力を入れる。昭和12年尋常小学校3年の教科書「ものごとにあわてるな」5年国語「稲むらの火」津波物語をとり入れる。

○昭和4年地震学会の設立

そのほか、地震予知への挑戦も今村の悲願でした。南海地震観測網の整備国の支持を得られず。私財で和歌山県、高知県に観測所を設立。〈和歌山市 東京大学地震研究所に引き継がれる。〉地動観測が軌道に乗ろうとした矢先、戦争により中止。そして、今村の予知が現実のものになります。

南海地震

1946年（昭和21年）12月21日午前4時19分04秒、和歌山県潮岬南南西沖78km（北緯32度56.1分、東経135度50.9分、深さ24km）を震源として発生したM8.0の昭和南海地震がある。この地震は1945年の敗戦前後にかけて4年連続で1,000名を超える死者を出した4大地震（鳥取地震、三河地震、東南海地震）の一つである。昭和南海地震では、地震発生直後に津

波が発生し、主に紀伊半島・四国・九州の太平洋側などに襲来した。地震や津波被害が激しかった地域は、高知県中村市（現四万十市南部）、須崎市、高知市のほか、和歌山県串本町、海南市などであった。四万十市では、市街地の8割以上が地震動で生じた火災等により壊滅したほか、串本町や海南市は津波による壊滅的な被害を受けた。死者は、行方不明者を含めて1,443名（高知県679名、和歌山県269名、徳島県211名）、家屋全壊11,591戸、半壊23,487戸、流失1,451戸、焼失2,598戸に及んだ。津波は、房総半島から九州に至る沿岸をおそい、特に徳島県、高知県沿岸における津波高さは4~6mに達しました。

南海地震の発生を知ったその時、今村は「18年の苦心水の泡となった」とため息をついた。失意のもとなくなる。その後、研究者により評価をうける。

地震予知連研究所所長の講演

今から9年前、私が独立してまもなく新潟県代理店協会のセミナーがありました。講師は地震予知連研究所所長で、全国都道府県でそれぞれに地震のシミュレーションをおこない、かなりの予算をかけ大きなコンピュータでしているという話でした。新潟では新潟地震と三条地震の2つの地震をシミュレーションの対象にしていました。三条地震は内陸の地震で有り直下型地震の被害は、同じマグニチュードで比べると新潟地震との差は4倍に及ぶとの話でした。そして、9年前の話が7年前の中越地震により実証されました。死者5倍、全半壊及び焼失家屋9倍、負傷者15倍、内陸地震の脅威を物語るものです。

「三条地震から180年いつ起きてもおかしくないのですよ!」と、講師から言われましたので、その後私のお客さんにはほとんど地震保険に加入していただいています。

新潟大学テレビ講座

中越地震、中越沖地震、能登地震とこの北陸地区でマグニチュード7クラスの地震が集中して起きています。この現象に対して新潟大学では2年ほど前にテレビ講座で、その原因について放送をしておりました。それによると元々日本列島はアジア大陸にくっ付いていたのですが、何万年も前に大陸から離れました。そして、2万年前に幾つかに分裂しました。本州も硬い岩盤が2つに分かれます。その隙間に火山灰が降り注ぎまた大地を作り上げます。その大地の一部が北陸です。当然のことですが硬い岩盤より弱い地盤です。現在この隙間が少しずつ狭まりつつあり、その歪により地震が引き起こると言う研究結果が出たというものでした。これが正しいとしたら、新潟県はかなり危険な状況にあることになります。

最後に、今村博士の言葉「君子未然に防ぐ」「君子危うきに近寄らず」という自己防衛的な態度ではなく 能動的あるいは社会正義的な態度で災害に対する「地震と震災は全く別である」「地震は避けることができないが、震災は防ぐことができる」。

個人の住宅と家財は地震保険に加入すれば、少しは救われます。家も耐震補強することができます。

会社は何か対策をしていらっしゃいますか？まだでしたら、早急にお考えください。

「君子未然に防ぐ」ご自身のこと、ご家族のこと、会社のこと、従業員のこと、地域のこと大丈夫ですか？

次週例会 2月16日

「世界理解月間」

国際奉仕委員長 五十嵐昭一 会員

次々週例会 2月23日

夜例会「新春例会」 於 出雲崎 みよや

